

目次

特別再録 御山のひとりに深き花の闇

藤原新也 4

特別寄稿 瀬戸内晴美と直木賞

川口則弘 22

◆ 随想

灯籠流し

東條眞理子 26

拝啓 瀬戸内寂聴様 四

清重康代 28

供養遊山

吉岡省二 30

寂庵の台所で

瀬尾まなほ 32

夏の終り

堤理恵 34

韓国——瀬戸内晴美『余白の春』の足跡を訪ねて

崔順愛 38

剣山のミヤマクマザサ

本田耕一 42

瀬戸内さんと三浦環

草の実 アイ 47

『ここ過ぎて——白秋と三人の妻』を讀んで

那賀川眞理 50

寂聴

Vol.4 2025.11

随想『秘花』

秋月香璃

54

『孤高の人』を読む

米本浩二

58

◆ 評論

イン・マイ・ルーム 〈ヴァージニア・ウルフと瀬戸内晴美〉

賀来真留加

60

一九六六年の瀬戸内晴美——四四歳 出会いと別れ、岐路の年

竹内紀子

69

晴美と荷風

——初出誌判明の初期短篇「川風」(瀬戸内晴美作)を読み解く

大石征也

82

◆ 資料

二〇二五年 寂聴・記念会関連のできごと

94

今号の執筆者紹介

96

瀬戸内寂聴記念会会則

97

編集後記

98

題字 瀬戸内寂聴